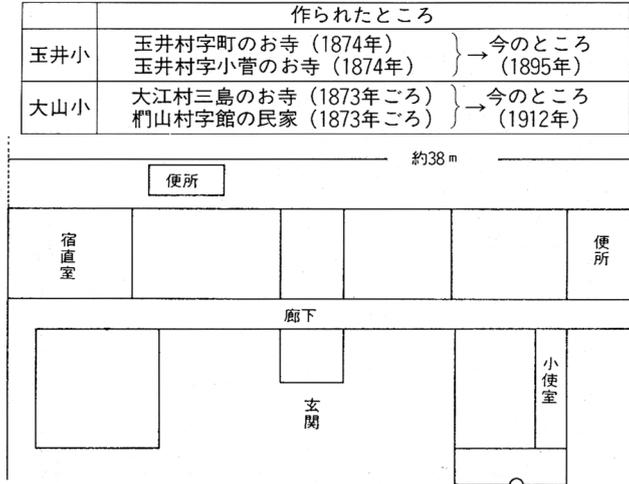


さいしよの学校



当時記録された校舎の平面図 (1895 明治28年) 玉井小

(二) 村の二つの小学校のうつりかわり

さむらいが世の中を治さむらっていたころ (江戸時代) には、少しの人しか学校 (寺小屋) に行きませんでした。大玉村にも百二十年ぐらい前に学校がつくられました。どの学校もさいしよは、お寺や民家 (ふつうの家) をかりていました。村では学校をつくるのにたいへんなお金がかかりました。

むかしの玉井小学校も、そのころお寺を借かりて学校としました。学校へ通かよう児童は、

たいへん少なかったのですが、だんだん多くなり、せまくなったので、大きな学校がたてられるようになりました。校しゃも、今のようでなく木ぞうでせつびもどとのついでませんでした。そのころは、きものをきて、げたやぞうりをはき、ふろしきに本やノートをつつんで通いました。家のしごこの手つだいがいそがしいために、学校へ行けなかったり、赤んぼうをせおつていくこともありました。

○むかしの勉強のようすをまとめてみましょう。